

評価の観点	工夫・創造	題材	計測・制御（3年生）	実施日時	R1年度
-------	-------	----	------------	------	------

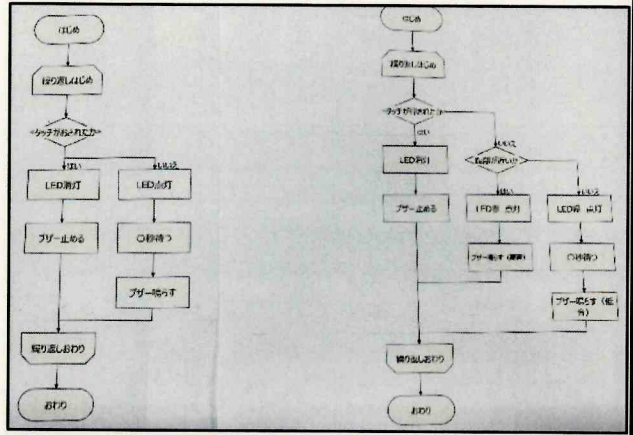
我が家を便利にするプログラムを作成することを通して、目的や条件を安全性、経済性、社会からの要求などの視点から効果を比較・検討し、最適な情報処理の手順を決定することができる。

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

導入

【手立て①：生徒の興味関心を掻き立てる導入】

・生活の場面を想起させるために、冷蔵庫の扉を開けたら電気が灯るシステムをフローチャートで提示する。続いて各家庭の状況により、閉まる時に子どもが近付くことを知らせるシステムを追加したフローチャートを提示することで、より便利にするために、センサの数を増やしたり、種類を変えたり、情報処理の手順を検討したりする必要があることに気付かせる。



展開

【手立て②：目的や条件に基づき最適な考えを導くための学習活動】

・家庭内の共有のスペースを本時まで学習してきたセンサやアクチュエータを用いて便利にしていく情報処理の手順を決定する。安全性や経済性、システム等の視点から便利にしたいことを目的とし、センサやアクチュエータを学習してきたものを使用することを条件として、前時考えたフローチャートを個人で検討する。この際、どこで、誰に、どんな動きをするのかを考えさせることで、目的意識をより明確にする。次に個人で考えたフローチャートを、違う視点同士でペアを組み検討させることで、相手意識や視点を焦点化し、より最適な情報処理の手順を決定していくことにつなげる。また、同時にプログラムの変更を行うことで、実現可能かを検討することにもつなげていく。

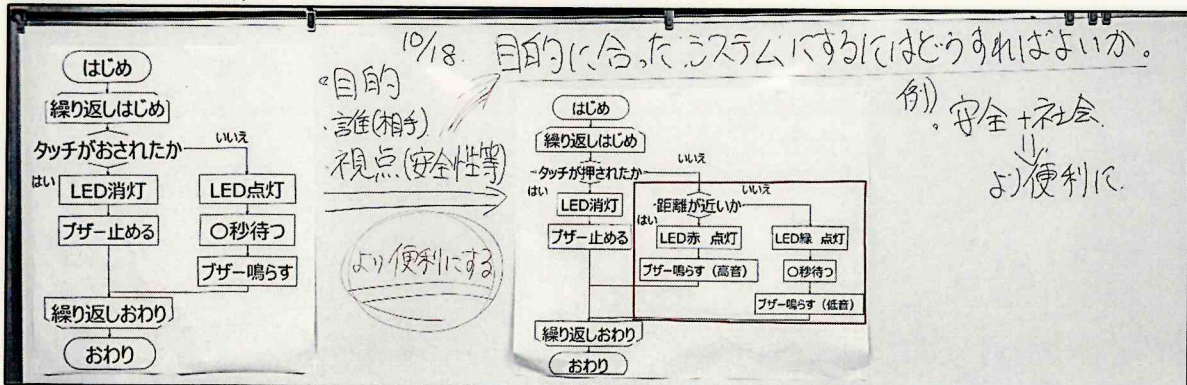


終末

【手立て③：身に付けた考え方を実感できる振り返り活動】

・本時の学習を①授業開始時の考え②授業終末時の考え③なぜその考えに至ったのかの3つの面から振り返りを行うことで、自己の変容とその根拠を明らかにし、身に付けた考え方を実感できるようにする。

<板書、生徒の作品、ノートなど>



1 本時のねらい

我が家を便利にするプログラムを作成することを通して、目的や条件を安全性、経済性、社会からの要求などの視点から効果を比較・検討し、最適な情報処理の手順を決定することができる。

2 本時の展開 (9/10)

題材を貫く課題 (関連)		計測・制御システムを用いて便利な我が家するには? (プログラムの作成)	
既習事項等とのつながり		評価規準	身に付けさせたい考え方
技術:「エネルギー変換に関する技術」の電気機器のスイッチによる制御 生活:防犯対策のされているドアが勝手に開くとサイレンが鳴る。		計測・制御の目的や条件に基づいて、フローチャートを用いて情報処理の手順を決定している。 【工夫・創造】	計測・制御システムを用いて生活の中にあるものをより便利にしていくには、システムを見直す必要がある。
展開：生徒の学習活動と予想される生徒の意識 (・)		指導の手立て (◆)	
1. より便利にするために計測・制御システムを見直した2つのフローチャートから、本時の見通しをもつ。【目標を設定する】 ・より安全性を高めるためには、どのような工夫ができるだろうか。 ・安全性だけでなく、経済性という視点からも考えるとよさそうだ。		◆「より便利」にすることから目的と条件に立ち返らせることで、フローチャートを再検討する見通しをもたせる。 ◆導入で目的や対象に立ち返ることで、生徒が安全性、経済性、社会性などの視点を想起しやすくする。	
目的にあったシステムにするにはどうすればよいだろう。			
2. フローチャートを見直す。(個人追究) ・扉に人が近付いたらLEDを点灯させ、人が離れないならブザーを鳴らすことでより安全性を高めることができるな。(安全性) ・人がいることを感知するために距離センサと音センサを使っていたが、費用を抑えるために足音を感知する音センサだけでもいいな。(経済性)		A: 視点をもとに情報処理の手順を変更している。 B: 視点が明らかになっているが情報処理の手順を変更できていない。 C: 視点が不明瞭で、考えが浮かばない。 B→使用しているセンサやアクチュエータが適切かを問うことで、情報処理の手順を検討できるようにする。 C→対象や状況を具体化する問い返しをすることで視点を明確にしている。	
3. ペアに別れて比較・検討しながらフローチャートを見直す。 【仲間と学び、仲間から学ぶ】		◆変容を捉えるため、前時までに作成したシステムの目的と視点を机列表に記録し、視点の追加などからシステムが変更されたかを見届ける。	
① 自分のシステムを説明する。 ○どこで、誰に、何をするか→どの視点に迫ることができるか。 ② ペアからアドバイスをもらう。 ○他の視点、より○○性を高めるためにセンサやアクチュエータを足したり減らしたりする。 ・人を感知するのに距離センサだけでなく音センサを使い、LEDを光らせるだけでなくブザーを用いることで、より危険を知らせることができそうだ。(安全性) ・距離センサで人を感知して、トイレに入った時に電気が点灯するようにしたけど、便座に座っている間、点き続けなといけなから、タッチセンサも利用してフローチャートを組み直そう。(社会性)		◆模型を活用することで、生活の場をイメージしやすくする。	
4. プログラムを実行し、動作を確認する。 ・経済性だけでなく、安全性も考えたプログラムを実行することができた。		◆自己の変容とその根拠を明らかにするために、3つの面から振り返らせる。	
5. 3つの面から学習の振り返りをし、全体で仲間の工夫やよさを知る。【自己を振り返る】			
① 授業開始時の考え ② 授業終末時の考え ③ なぜその考えに至ったのか ・最初は暗いときに廊下の電気を点けることで、家族が安全に生活できるシステムを考えていたが、ペアとの交流を通して、経済性の視点を取り入れました。そうすることで、暗いと点いたままになっていたシステムを、距離センサを足したことで、暗くて、人が通った時に点くようにし、経済性も高めることができました。			

評価の観点	情報を適切に表現・処理する能力	題材	プレゼンテーションの制作(1年生)	実施日時	R2.11.6
-------	-----------------	----	-------------------	------	---------

本時のねらい スライドの構成から自分が伝えたいことを明らかにし、「統一感」や「テンポ」「強調」ということに気を付けながら情報を適切に伝えるためのアニメーションの設定をすることができる。

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：生活や社会とつきたい力をつなぐ導入の工夫】

- ・ プレゼン資料を作成できる Power Point は社会の中でも使用頻度が高く様々な場面で用いられている。中でも、スティーブ・ジョブズは観客に魔法をかけるようなプレゼンテーションを行うと言われている。そんな人材や能力が社会から要求されているということを導入で伝え、生活や社会と今の学びをつなげた上で授業を行った。

【手立て②：見方・考え方を働かせる実践的・体験的な活動】

- ・ 導入で、「テンポ」「強調」「統一感」の3つの視点を取り入れながらアニメーションを設定したものとそうでないものを示すことで、どのようにアニメーションの設定を行えばよいのか活動の見通しをもたせた。アニメーションを設定する際に3つの視点を意識しながら、より相手に伝わりやすいプレゼンテーションにするためにはどうすればよいか試行錯誤を繰り返しながら制作を行った。また、自分がどんなアニメーションを設定し、わかりやすく伝えるための工夫を行ったかわかるようにワークシートにまとめ、視覚的にわかるようにした。



【手立て③：深い学びにするために】

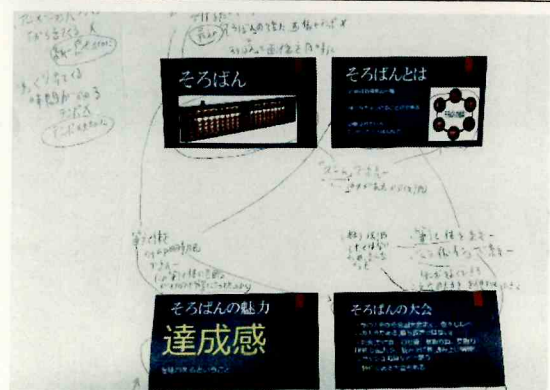
- ・ プレゼンテーションを作成したのち、3つの観点でより相手に伝わるプレゼンテーションができているか確かめるためにペア交流を位置付け、工夫したところ、新たに工夫できそうなことを伝え合う。それによって、自分の学びを実感するとともに、仲間のアドバイスをもとによりよいプレゼンテーションにするためには、どうするべきか、これまでの学びを生かしながら見方や考え方を働かせるようにする。



<板書、生徒の作品、ノートなど>

【生徒Aの授業後の振り返りと作品】

わかりやすく相手に伝えるために3つの視点を意識してアニメーションを付けることができたのでよかった。特に一番伝えたいところは、ペアの意見を参考にしながら、時間や効果を考えてアニメーション設定することができた。



		プレゼンテーションの制作
<p>【本時のねらい】 スライドの構成から自分が伝えたいことを明らかにし、「統一感」や「テンポ」「強調」ということに気を付けながら情報を適切に伝えるためのアニメーションの設定をすることができる。</p> <p>【本時特に育成を目指す資質・能力】 相手に伝わるプレゼンテーションにするために効果的なアニメーションの設定について思考する力</p>		
	学 習 活 動	深い学びに迫るための指導の手立て
つかむ	<p>(1) 前時を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。 ・前時はアニメーションの設定の仕方がわかった。アニメーションを活用してより相手に伝わるようにするためにはどうすればよいのかな。</p> <p>(2) 教師が作った2つのアニメーションを見てどこを工夫すればさらによくなるのかを話し合う。 ・開始の仕方をそろえることで見る側が予想できて見やすくなりそうだ。 ・タイトルなどの短い文や図や表は動きの速いアニメーションにした方がじっくり見ることができてよさそうだ。 ・長いアニメーションを多用しない方がテンポよく進めることができそうだ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>わかりやすく相手に伝えるために、どのようにアニメーションを設定すればよいのだろうか</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>生活や社会とつきたい力をつなぐ導入の工夫 自分の考えを相手に伝えるときに様々な場面でプレゼンテーションが使用されていることを知り、情報を適切に処理・表現する工夫を考えていこうとする気持ちをもたせる。</p> </div> <p>◆ 2種類のアニメーションを比較して、どこに問題があるのか話し合わせる。</p> <p>【問題点】 ・いろいろな種類のアニメーションを使っているためごちゃごちゃしている。 ・アニメーションの時間が長く、テンポが悪い。 ・強調のアニメーションを多用しているため、自分の伝えたいことが何なのかよくわからない。</p>
深める	<p>(3) 話し合ったことをもとに、自分のプレゼンテーションにアニメーションをつける。 ・一番伝えたいことに強調のアニメーションを入れよう。 ・テンポをよくするために、アニメーションの時間を短めにしよう。 ・スライドの始めの部分はすべて同じアニメーションを設定して統一感を出そう。</p> <p>(4) 情報を適切に表現するためにどのような工夫をしたのかをワークシートに記入する。 ・まだ工夫できるところがありそうだ。 ・自分の工夫が明確になってきたぞ。</p> <p>(5) 「統一感」「テンポ」「強調」の視点をもとにどのようにアニメーションをつけたのかをペアで話し合い、助言をもらう。 ・統一感がないから使うアニメーションを厳選して使うといいんじゃないかな。 ・どこが強調したいことかわからないから、違うアニメーションを使った方がいいんじゃないかな。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>見方・考え方を広げ深める実践的・体験的な活動 「統一感」「テンポ」「強調」という視点をもとにプレゼンテーションにアニメーションを設定する。</p> </div> <p>◆ ワークシートにアニメーションを作った時の工夫を書き込むことで各視点で気を付けたところを明確にする。</p> <p>◆ 自分の作ったプレゼンテーションでどのような工夫をしたのかを交流させる。また、交流後はペアに助言をもらい、その意見をもとに修正を行う。</p>
振り返る	<p>(6) どのようなことに気を付けながらアニメーションを作成したのかを発表する。</p> <p>(7) 学習を振り返る。 ・アニメーションをつければ何でもいいと思っていたけど「統一感」「テンポ」「強調」という視点でつけたらより伝わるプレゼンテーションになったと感じた。見る人の立場になってアニメーションを考えることで自分の考えがより伝わるプレゼンテーションになるとわかったので、次回に生かしていきたい。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【評価規準】 情報を適切に処理・表現し、「統一感」「テンポ」「強調」という視点でアニメーションを設定することができる。(創意・工夫)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>振り返り活動の工夫・改善 何を考えたのか、生かしたいことは何かを振り返りに書かせることで、次の学習につなげるようにする。</p> </div>

評価の観点	思考・判断・表現	題材	材料と加工法(1年生)	実施日時	R3.6.11
-------	----------	----	-------------	------	---------

本時のねらい 厚紙で作った枠の強度を上げる方法について考える活動を通して、三角構造や面構造等にすることで丈夫になることに気づき、耐久性や経済性などの様々な視点をもとに丈夫な枠のつくり方を考えることができる。

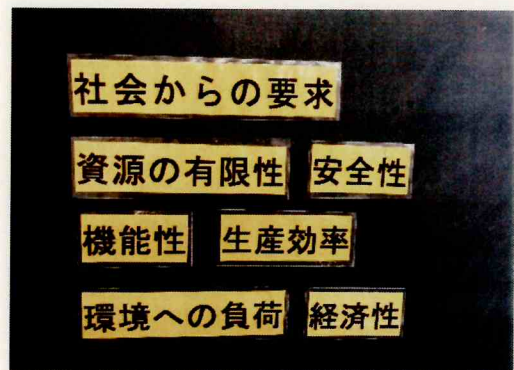
<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：課題解決の見通しをもたせるための導入の工夫】

- 学校の耐震補強や家、橋など丈夫な構造にするための工夫が身の回りにあふれている。厚紙で作った枠を実際に見せて強度がないことを確かめた上で、自分たちが収納ラックを作る時に強度がある丈夫な構造にするために工夫が必要だと課題解決の必然性をとおさえた上で授業を行った。

【手立て②：見方・考え方を働かせるための視点にもとづいた実践的・体験的な活動】

- 実際に厚紙で作った枠を丈夫にする活動を行った。厚紙でつくった枠に底をつけて丈夫にする生徒や枠の中を仕切るようにして三角の構造をつくる生徒など、丈夫な構造にするための工夫が見られた。黒板には、授業の中で大切にしたい見方・考え方を働かせるための視点を位置づけており、「耐久性」「経済性」「資源の有限性」など様々な視点をもとに丈夫な構造について考えていた。



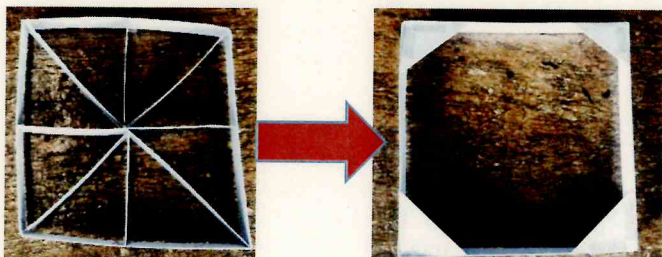
【手立て③：実践を評価・改善し、表現するための振り返り活動】

- 丈夫な枠を作った後に、ペア交流を位置づけた。この交流では、自分がどのような工夫しながら丈夫な構造を作ったのかを話し合わせた。多くの生徒は「耐久性」という視点をもとに丈夫な枠にするための工夫を行っていたが、「材料(厚紙)をたくさん使うとお金がかかり、環境にもよくない。」といった「経済性」や「環境への配慮」について考えた仲間の発言から自分の作った枠の構造を見直すきっかけになった。



<板書、生徒の作品、ノートなど>

【生徒Aの変容】



最初 Aさんは、「耐久性」という視点だけで丈夫な構造にするにはどうすればよいのかを考えていたが、交流後には、「経済性」や「資源の有限性」の視点も大切であることに気づき、よりよい補強の仕方について考え、仲間にそのことを伝えることができた。

丈夫な構造

【本時のねらい】

厚紙で作った枠の強度を上げる方法について考える活動を通して、三角構造や面構造等にするこ
 丈夫になることに気づき、耐久性や経済性やなどの様々な視点をもとに丈夫な枠のつくり方を考えるこ
 とができる。

【本時特に育成を目指す資質・能力】

「耐久性」「経済性」「資源の有限性」など視点で最適な枠について考える力

学 習 活 動

深・学びに迫るための指導の手立て

つかむ

(1) 生活の中の丈夫な構造にするための工夫を知り、学習の
見通しをもつ。

・身近なところで丈夫な構造にするための工夫がされているんだな。

(2) 厚紙で作った枠を見て、耐久性がないことを知る。

・枠を揺るとふにやふにや動いて耐久性がなさそうだな。

・丈夫な構造にするためには、どのような工夫ができるだろうか。

・厚紙をたくさん使って補強すれば丈夫になるんじゃないかな。

丈夫な枠を作るには、どうすればよいのだろうか

(3) 厚紙を使って耐久性を高めるための方法を考え、補強する。

・枠の底に厚紙をつけ、箱のような形にすることで丈夫になりそうだな。

・角が固定されていないから枠が動いているな。角を補強すれば強度があがるんじゃないかな。

・学校の耐震補強で、三角形の構造を作っていたから同じような構造を枠の中に作れば強度を上げることができるんじゃないかな。

(4) 丈夫な枠を作るためにどんな工夫をしたのかを班内で交流する。

・「耐久性」を高めるために、厚紙をたくさん使ったら丈夫になった。

・厚紙をたくさん使うと丈夫にはなるけれど、そんなにたくさんの厚紙を使って補強する必要があるのかな。

・厚紙をたくさん使うと「耐久性」は上がる。建物や作品を丈夫にしようと考えた時に、それではお金がかかるし資源の無駄遣いにもなる。丈夫にすることだけでなく様々な視点で考えていかなければいけないな。

(5) 様々な視点をもとに丈夫な枠の作り方について考え直す。

・仲間の意見を聞いたならそんなに厚紙を使わなくても丈夫な構造をつくることができそうだ。

・様々な視点で考えることが大切なんだな。

(6) 全体交流で、どんなことを考えながら丈夫な枠を作ったのかを発表する。

・面構造や三角の構造を作ったり、角を補強したりすると丈夫な構造になるんだな。

(7) 学習を振り返る。

・最初は、丈夫な枠にするために、たくさんの厚紙を使って補強すればよいと考えていた。でも、収納ラックや建物の耐久性を高める時に、材料をたくさん使うということは、お金もかかるし、資源の無駄遣いになる。必要以上の耐久性は必要ないので、丈夫にするために「耐久性」という視点で考えるだけでなく、様々な視点で考えていくことで最適な選択ができると思った。収納ラックを作る際にも、様々な視点をもとに考えていくことを大切にしていきたい。

深める

振り返る

生活や社会とつきたい力をつなぐ導入の工夫

家や学校、自分たちが作る収納ラックなど強度を上げなければいけない場面について想定し、本時の学習とつなげる。

◆教師が厚紙で作った枠に耐久性がないことに気付かせ、問題解決の見通しをもたせる。

◆技術における見方・考え方を働かせるための視点を提示し、それらの視点をもとに丈夫な枠の作り方を考える。

見方・考え方を広げ深める実践的・体験的な活動

「耐久性」「経済性」「資源の有限性」などの視点をもとに丈夫な枠の作り方を考えさせる。

◆班交流を行うことで、自分が考えていなかった視点について気付けるようにする。

◆少ない材料を使って補強しても十分な強度が得られることを体験的な学習から理解させる。

【評価規準】

三角の構造や面構造、角を補強することで丈夫な構造になることに気づき、様々な視点をもとに丈夫な枠の作り方について考えることができる。(思考・判断・表現)

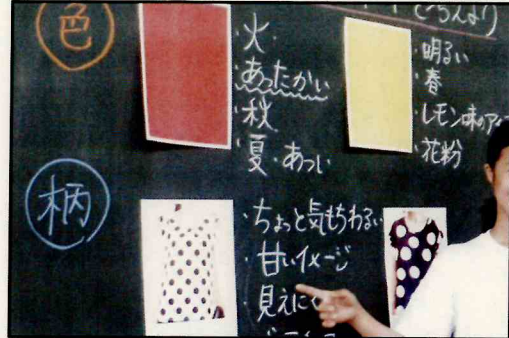
振り返り活動の工夫・改善

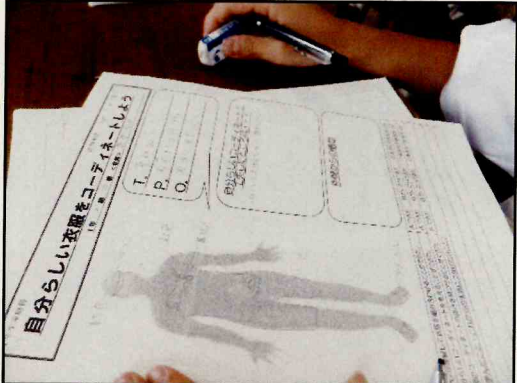
何を考えたのか、生かしたいことは何かを振り返りに書かせることで、次の学習につなげるようにする。

評価の観点	工夫・創造	題材	快適に大切に着よう（1年）	実践日時	R1年度
-------	-------	----	---------------	------	------

本時のねらい 衣服の着用により，自分らしさを表現するためには，衣服の着方を工夫することが大切なことに気付き，衣服の色・柄・形の組み合わせを工夫して，自分らしい着方を考えることができる。

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

導入	<p>【手立て①：生活とつなげる導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤，青，黄色の3色とドットやボーダーの柄の異なる衣服の写真を示し，そこから受けるイメージの違いを考えやすくする。色や柄・形の組み合わせによって印象が違ってくるところを感じさせる例を提示することで，自分の目的に合った衣服の選択をしていかなければいけないことに気付かせた。
展開	<p>【手立て②：T. P. O. に基づいて視点を明確にする学習活動の工夫】</p>  <ul style="list-style-type: none"> T. P. O. をもとに，自分らしい着方をイラストで書かせた。また，どのような意図をもって衣服を組み合わせたのか，工夫点を記述させた。その後，各自がT. P. O. に合わせて，考えた衣服とその工夫点を交流させた。導入で色や柄，形に着目するよう伝えておくことで，仲間の衣服から受ける印象も，視点を明確にして交流を進めることができた。
終末	<p>【手立て③：生活経験とのつながりをもたせる終末の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返る視点を「①T. P. O. に合わせて衣服を考えることができたか。」「②これからの衣生活で，どんなことに気を付けていきたいか。」の2つの視点に絞り，振り返り活動を行った。そうすることで，本時学んだことを，これからの生活にどのようにつなげていきたいかを明らかにすることができた。



<板書，生徒の作品，ノートなど>

<今日学んだこと・これからの生活につなげたいこと>

T.P.O.で色や柄から考えてコーディネートすることができました。これからは、夏には涼しい服、冬には暖かい服に合わせたコーディネートがしたいです。

<今日学んだこと・これからの生活につなげたいこと>

私は自分の着たい服を選んで、暑さとかを考慮しないで、少し暑かったり、寒い時もある。暑さや寒さについてもう少し工夫したい。夏は涼しい服、冬は暖かい服に合わせたコーディネートがしたいです。

1 本時のねらい

衣服の着用により、自分らしさを表現するためには、衣服の着方を工夫することが大切なことに気付き、衣服の色・柄・形の組み合わせを工夫して、自分らしい着方を考えることができる。

2 本時の展開 (2 / 11)

題材を貫く課題 (関連)		快適に衣生活を送るにはどうしたらよいだろう	
既習事項等とのつながり		付けたい力	評価規準
生活 : 私生活で着用している衣服 美術 : 作品づくりの配色 とびら : 色の使い方 (とびらの手引きより)	<工夫・創造> T.P.O.にもとづいて、衣服の色・柄・形を選択し、自分らしい着方を工夫できる力。	衣服の着方によって人に与える印象が異なることに気付き、色・柄・形の組み合わせを工夫して、自分らしい着方を考えることができる。	
展開	生徒の学習活動と予想される生徒の意識 (・)	指導の手立て (◆) 見届け (●)	
<p>1. 提示された色や柄から、どのようなイメージや印象を受けるかを交流し、衣服の人に与える印象を変える要素を考え、自分らしい着方の見通しをもつ。【見通しをもつ】</p> <p>①色から受けるイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤は熱い、激しい、派手なイメージだな。 青はさわやか、涼しい、優しいイメージだな。 黄色は明るい、元気なイメージだな。 <p>②衣服の柄や形から受ける印象</p> <ul style="list-style-type: none"> 色の組み合わせだけでなく、衣服の柄や形を変えても、人が受ける印象が変わってくるな。 		<p>◆赤、青、黄色の掲示を用意し、その色から受けるイメージを考えさせる。</p> <p>◆色や柄、形の組み合わせによる印象の違いが明確につかめる拡大した写真を示す。</p> <p>●色や柄などから受けるイメージをノートに書かせ、挙手による発言で生徒の実態を見届ける。</p>	
自分らしさを表現するには、衣服の色・柄・形をどのように工夫するとよいだろうか			
<p>2. T.P.O.を設定し、自分らしい着方を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T→時 : 夏休み</p> <p>P→場所 : 長良川の河川敷</p> <p>O→場合 : 友達や家族と一緒にバーベキュー</p> </div>		<p>◆様々な色や柄などの衣服のイラストを参考にして、色や柄、形の組み合わせを工夫して、自分らしい着方を考えさせる。</p> <p>A : T.P.O.に合わせて色や柄などで自分らしさを表して衣服を考えている。</p> <p>B : 自分らしさまたは T.P.O.のどちらかだけを考慮して衣服を工夫している。</p> <p>C : T.P.O.や自分らしさなどを考えずに衣服を組み合わせている。</p> <p>B→自分らしい衣服になるように、好きな色や似あう柄を選んだり T.P.O.を確認し直したりする。</p> <p>C→T.P.O.が具体的にわかるように、気温や場面を想起させたり、自分らしさを表すために、好きな色や好きな柄を取り入れられたりできるようにイラストなどを使ってイメージさせる。</p>	
<p>3. 考えた「自分らしい着方」についてグループで交流する。【仲間と学び、仲間から学ぶ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 私は涼しいイメージの水色のTシャツにしました。夏休みの暑い時だと思うので、半そで半ズボンにしました。そでの部分は、風が通りやすいように、透けている生地になりました。足はサンダルで、川で濡れてもいいようにしました。麦わら帽子をかぶって陽射しを防ぎました。 		<p>◆グループで交流する際には、各自が設定した T.P.O.にもとづいて考えられているか、また衣服の組み合わせから受ける印象を話し合わせる。</p> <p>●プリントに T.P.O.にもとづいた「自分らしい」衣服がかかっているかで学習状況を見届ける。</p>	
<p>4. 2つの視点で学習の振り返りをする。【自己を振り返る】</p> <p><2つの視点></p> <p>① T.P.O.にもとづいて衣服を考えることができたか。</p> <p>②これからの衣生活で、どんなことに気を付けていきたいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 色は組み合わせによってイメージが変わるし、柄の種類や大きさの違いによってもずいぶん印象が変わることがわかった。夏に黒色の服を着ようとしていたら、友達に「暑く見えるから違う色の服にしてみたら?」と言われたことから、涼しく見える白色に変えた。季節やその場に応じて、いろいろな組み合わせを考えて自分らしい着こなしができるようにしていきたい。 		<p>●T.P.O.に合わせて自分らしい衣服を組み合わせしてみた結果やこれまでの生活経験をもとに振り返りを書かせることで、定着状況を見届ける。</p>	

評価の観点	技能	題材	快適に大切に着よう(1年)	実践日時	R2.10.19
本時のねらい	前時縫い付けたスナップと縫い見本を見比べることを通して、糸のゆるみやスナップから遠い位置に縫い付けてある状態ではスナップを簡単に取り外しができないことに気づき、スナップの側面に近い布をすくうことでスナップがぐらつかないように丈夫に縫うことができる。				

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：生活や社会と付けたい力をつなぐ導入の工夫】

- 「ぐらつきがある」「糸がゆるゆるになっている」「糸がバラバラの位置から出ていて見た目がよくない」など、よくない部分に気づきやすい資料を提示する。「取り外しがしやすい」とは、どのような状態なのかを問い返し、スナップがぐらつかないように布にぴったり縫い付ける必然性を感じさせる。



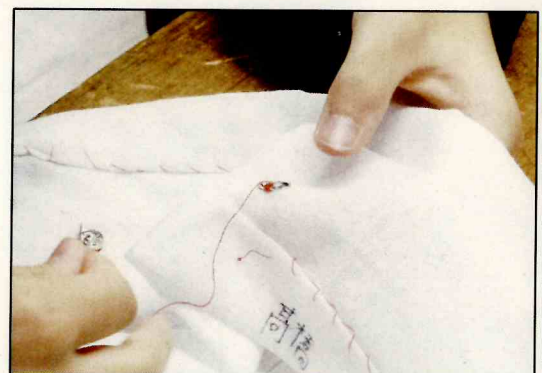
【手立て②：「ペア交流」による対話的な学び】

- スナップを自分で丈夫に縫うことができるようにするため、ペアとの交流を片方のスナップを付け終えた後に位置付ける。ペア交流でお互いのスナップの付け方を評価助言することで、縫い方の視点や自分のスナップの状態を客観的に見直すことをねらう。評価助言の視点がぶれないように、交流の際には、導入で示した視点に沿ってお互いのスナップボタンを見合い、その後気付いたことをお互いに伝え合うようにする。また、教師からもより丈夫にするための縫い方の視点を与え、縫い方を追究し続けられるようにする。



【手立て③：深い学びにするために】

- 終末には自己評価を位置付け、前時で付けたスナップと本時で付けたスナップの状態を比較させる。それによって、自分の縫い方の成長を実感できるようにする。また、スナップを留め外しして試みることで、自分の生活でも丈夫にスナップボタンをつけることよさを実感し、より丈夫で美しい縫い付け方を求め続けようとする姿をめざす。



<板書、生徒の作品、ノートなど>

【生徒Aの授業後の振り返りとスナップ】

前回縫った時は、糸が出る位置がバラバラになってしまっ
て、見た目がよくなかったけど、スナップに近い位置からぎ
りぎりの位置に針を刺すことで見た目も美しく、丈夫に縫う
ことができました。



1 本時のねらい

前時縫い付けたスナップと縫い見本を見比べることを通して、糸のゆるみやスナップから遠い位置に縫い付けてある状態ではスナップを簡単に取り外しができないことに気づき、スナップの側面に近い布をすくうことでスナップがぐらつかないように丈夫に縫うことができる。

2 本時の展開 (10/12)

題材を貫く課題		快適な衣生活を送るにはどうしたらよいだろう	
生活や社会とのつながり	評価規準	本時特に育成を目指す資質・能力	
小学校家庭科：玉結び・玉止め・ボタン付け 生活：衣服に付けられているスナップの補修	留め外しを繰り返すスナップは丈夫に付ける必要があることがわかり、スナップの側面に近い布をすくい、ぐらつかないようにスナップを付けている。 【技能】	衣服の手入れの必要性を理解し、快適さ、丈夫さの視点で、適切に補修ができる力。	
学習内容・学習活動		教師の指導と評価	
1. 前時のスナップ付けを振り返る。 ・糸がゆるゆるで、ぐらついてしまう。 ・スナップから遠い位置から糸が出てしまっているな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> スナップを丈夫に縫い付けるにはどうしたらよいだろう </div> 2. 仲間の縫い方を見て、どんなことに気を付けるとよいか交流する。 <見る視点> 針を刺す位置 スナップを持つ手 ・穴に糸を通すたびに、スナップを持つ手で布を引っ張るとゆるゆるにならない。 ・同じ位置から針を通すのではなくて、少しずつ次の穴へずらしていくと、一か所に固まって縫いにくくなることはない。 <視点からわかるポイント> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px 0;">スナップを少し傾けながらスナップの側面に近い布をすくう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px 0;">穴に糸が均等にかかるように少しずつずらしながら縫う</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 2px 0;">糸にゆるみがないように、引っ張りながら縫う</div> 3. 凸のスナップ付けをする。(個人追究①) ・針を刺す位置を少しずつずらしながらやってみよう。 ・スナップを傾けてできるだけ側面に近い位置を縫ってみよう。 ・布を引っ張りながら縫っていくと、ゆるゆるにならないな。 4. スナップ付けをしてみて、困ったことやうまくいったことをペア交流し、評価用紙に書き込む。(全体追究) ・針を刺す位置を少しずつずらしていったら、布にぴったり縫い付けることができるのだな。 ・最後に出した糸がまだ少しゆるゆるしている。 ・仲間のスナップを見ると、ぐらつきは少ないけど、糸がスナップから離れた位置に縫い付けてあるな。 5. 凹のスナップ付けをする。(個人追究②) ・より丈夫に縫うために、スナップを少し傾けて、スナップのぎりぎりの位置に針を刺すとぐらつきがなくなるのだな。 6. 自己評価用紙に本時の振り返りをする。 ・自分でスナップ付けをしたが、ぐらつかないように糸を引っ張りながら縫い付けることができた。だから、簡単に取り外すことができた。もし制服などのスナップが、取れてしまったら、次は取れないように丈夫に取り外しがしやすいように、自分で縫い付けられるようにしたい。		◇指導方法の工夫・改善(1) ・「取り外しがしやすい」とは、どのような状態なのかを問い返し、スナップがぐらつかないように布にぴったり縫い付ける必然性を感じさせる。 ・前時の生徒の振り返りから、丈夫に縫うために工夫している生徒を取り上げ、その縫い方を拡大投影機で示し、ぐらつかないように縫うための針を刺す位置やスナップと布を持つ手の動きのポイントをつかませる。 ◇指導方法の工夫・改善(2) ・個人追究時、大型TVに、スナップ付けの一連の流れが分かる動画を流す。また、各テーブルに手順を示した写真及び縫い見本を用意し、自分に必要な資料を利用し、改善するポイントを明らかにして自分で縫うことができるようにする。 ・ペア評価用紙に、仲間のスナップの縫い付け方の様子を評価させ、良い点と改善点を明らかにし、助言する。 ・ペア評価用紙をもとに明らかになった課題に対する改善のポイントを意識しながら作業を進めている姿を価値付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 【深い学びの姿】 スナップの側面に近い布をすくい、ぐらつかず均等に糸をかけるために、左手でスナップボタンと布を持ち、針を刺す位置を安定させて、スナップを付けている。 </div> ◇指導方法の工夫・改善(3) ・練習布に縫い付けた前時のスナップと本時の個人追究①②でのスナップの状態から、自分の1時間の伸びを実感させると同時に、スナップが丈夫に付いていることの良さを感じさせる。	

評価の観点	思考・判断・表現	題材	快適で安全な住まいをつくり出そう(1年)	実践日時	R3.6.16
本時のねらい	快適な住まい計画を立てる活動を通して、安全、快適さ、空間を使い分ける必要性等のさまざまな視点で住まいを捉える必要性に気づき、自分や家族にとって安全で過ごしやすい住まいを考えることができる。				

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：課題解決の見通しをもたせるための導入の工夫】

- ・ Aさんの住まいの例を見て、安全面や快適さ等に問題があることに気付かせ、よりよい住まいをつくるための見通しをもたせる。「通りがせまい」「入り口付近には物を置かない方がよい」「収納の空間がもう少しあるといい」など、よりよくなる部分に気づきやすい例を提示する。生徒自ら、問題点を捉え、解決の見通しをもった上で課題が設定できるようにする。



【手立て②：見方・考え方を働かせるための視点に基づいた実践的・体験的な学習活動】

- ・ 一人一セットの教材で住まいを考えるため、同じ広さ、同じ家具を用いても、間取りや家具の配置は十人十色である。20分ほど個人で考える時間をとった後、ペア交流で自分の住まい計画の意図をペアに伝え、ペアの住まい計画の意図を聞き、よさやアドバイスを伝え合う。計画途中で交流することで多様な視点で捉える必然性に気付くことをねらう。交流の視点は、板書に位置付け、自他ともに住まいを捉えなおすことができるようにする。

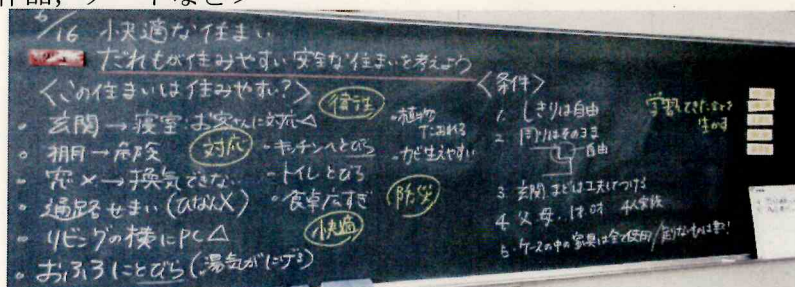


【手立て③：実践を評価・改善し、表現するための振り返り活動】

- ・ 終末には振り返りを位置付け、前時までの学習で大切にしてきた様々な視点が住まいを考えるとときに活用できたかどうか確認する。題材を通して、毎時の終末で振り返りを行うことで、段階的に自己を見つめていく。そうすることによって、自分の住まいを捉える視点が多様になっていく成長を実感できるようにする。



<板書、生徒の作品、ノートなど>



本時のねらい

快適な住まい計画を立てる活動を通して、安全、快適さ、空間を使い分ける必要性等のさまざまな視点で住まいを捉える必要性に気付き、自分や家族にとって安全で過ごしやすい住まいを考えることができる。

本時の展開 (6/7)

題材を貫く課題 (関連)		自分や家族が健康で快適に住まうにはどうしたらよいだらう	
生活や社会とのつながり		評価規準	付けたい力
生活 : 自分の住まいや生活		安全、快適さ、空間を使い分ける必要性等のさまざまな視点で住まいを捉え、自分や家族にとって安全で過ごしやすい住まいを考えることができる。 【思考・判断・表現】	自分や家族にとって安全で過ごしやすい住まいを考える力。
展開 : 生徒の学習活動と予想される生徒の意識 (・)		指導の手立て (◇)	
見通しをもつ場	<p>1. Aさんの住まいのつくりから、よりよくできそうなことを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通り道が狭いので、通りやすいように幅を広くした方がよい。 ・個人の空間と家族共有の空間は分離していた方が過ごしやすそう。 ・万が一地震が来た時に、入口付近に物が置いてあると、通り道をふさいでしまうので、置かない方がよい。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自分や家族にとって過ごしやすい住まいを作ろう</p>	<p>◇前時までの学習から、安全、快適などの視点で住まいを考えていくことを導入で押さえる。</p> <p>◇Aさんの住まいの例を見て、安全面や快適さ等に問題があることに気付かせ、よりよい住まいをつくるための見通しをもたせる。【研究内容2- (1)】</p>	
実践的・体験的な学習活動を行う場	<p>2. 住まいづくりの条件と視点を確認する。</p> <p>条件 : ①4人家族 (父, 母, 中学生, 幼児) の住まい ②部屋の数や間取りは自由 ③住まいの外枠は広げない</p> <p>視点 : 防災, 事故防止, 快適さ 等</p>	<p>◇生徒の家族形態は様々であるため、条件をそろえることで、全員が同じ土台で住まいづくりができるようにする。また、前時までに学習してきた視点を確実に意識できるよう板書に位置付ける。</p>	
	<p>3. 住まいを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震等が起こったとき、すぐに逃げられるように、入口付近は物を置かないようにしよう。 ・においが部屋にこもらないように、キッチンには窓をつけて換気ができるようにしたい。 ・ドアに手を挟まないように、スライド式のドアでゆっくり閉まる器具を取り付けてみよう。 ・家族で集まれる空間を作りたい。 	<p>◇一人一セット教材を用意し、自分や家族のためにどのような住まいをつくるか個人で考えられるようにする。その際、部屋のつくりや家具の位置などどのような意図で配置したのか表現できるよう付箋に自分の考えを書き込みながら進めていく。【研究内容2- (2)】</p>	
振り返りの場	<p>4. 住まい計画を交流し、よさやアドバイスを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、「安全」という面で、地震が来た時に避難経路が確保できるよう入口付近には大きな家具などを置かないようにしたり、寝室に外に出入りできる勝手口を付けたりした。 →地震が来た時は、出入りがしやすくていいけれど、泥棒や不審者など防犯の面では、危ないと思う。 ・僕は、キッチンから幼児が遊んでいる様子を見ることできるように、キッチンとリビングをつなげた。 →幼児が簡単にキッチンに入れるので、柵のようなもので仕切りしておくとか家庭内事故につながりにくい。 	<p>◇C→Bにするための手立て 1つの視点だけで考えるのではなく、「〇〇の時はどうするのか。」等と様々な視点で考えるよう促す。</p> <p>◇B→Aにするための手立て 2つ以上の視点で捉え、考えている生徒には、さらに家族が歳をとったら等現状に留まらず将来のことまで見通して住まいを考えてみるように促す。</p>	
	<p>5. 住まい計画を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間からのアドバイスをもとに、住まい計画を修正する。 	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">◎よりよい生活を創造するための手立て</p> <p>◇視点をもとに、自分の住まい計画を仲間に話すことで、考えている住まいのよさを確認したり、多面的に住まいを捉えなおしたりする。</p>	
	<p>6. 振り返りを行う。</p> <p>今日は、家族みんなが過ごしやすい住まいを考えました。家具の位置や隣り合う部屋をどうするか等、考えることが多くて難しかったです。でも、〇〇さんが、幼児がキッチンに入らないように柵を置くの良いとアドバイスをしてくれたので、キッチンとリビングはつなげたままで、柵を置いて家庭内事故が起きないように工夫できました。次の時間もいろいろな視点で住まいを考えたいです。</p>	<p>◇自分の計画と比較し、視点をもとに仲間の計画の評価を行い、よりよい住まいになるように助言をする。 【研究内容2- (3)】</p>	
		<p>◇振り返りを積み重ねていき、自己の成長を実感させる。【研究内容2- (3)】</p>	